

令和4年度 第1回 市川市博物館協議会

会 議 次 第

1. 議 題

(1) 報告事項

- ・令和3年度 事業実施状況に対する自己評価について
- ・令和4年度 館別事業計画について
- ・令和4年度 企画展『遺伝子からみた古代のイヌ』について

(2) 協議事項

- ・令和3年度 事業実施状況に対する外部評価について

(3) その他

- ・次回協議会（開催日程等）について

令和3年度 事業実施状況に対する外部評価

評価基準 A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90%以上）
 B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75%程度）
 C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60%程度）
 D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50%に満たない）
 ー：コロナ禍で事業未実施のため、評価できず。

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価
収集・調査研究 調査研究及び	考古	調査や報告書作成、資料管理などを随時実施した。	B	B		
	歴史	収蔵資料の整理が進んだほか、図書の整理や研究会などへの参加も年間を通して実施した。	B			
	自然	新規データの整理に追われ、スライドフィルムのデジタル化進まなかった。	C			
展示	考古	通年開館したほか、企画展、小企画展、学校巡回展、展示解説などを開催した。	B	B		
	歴史	常設展示の一部を入れ替えたり、昔のくらし展や季節展などを開催した。	B			
	自然	感染拡大防止対策（閉館後の消毒、椅子の撤去、ハンズオンの中止など）を行い、コロナ前に近い形で開催できた。	B			
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	考古	コロナ禍の市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	C	C	
	歴史	コロナ禍の市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	C			
	自然	コロナ禍の市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	-			
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	考古	依頼が少なかったが、小学校へ出張する授業や縮小日程の館務実習など、コロナ禍に対応した指導を行った。	B	B	
	歴史	依頼が少なかったが、内容を変更したり、コロナ禍に対応した指導を行った。	B			
	自然	出前授業は市内の市立・私立小学校、幼稚園、大学から計19回依頼があった。	B			
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	考古	友の会や外部からの依頼により、見学会や講演の講師として協力した。	A	B	
	歴史	友の会の展示や資料調査、その他の活動に協力した。	B			
	自然	公民館、市民団体等申込があれば対応する。	-			
運営	考古	例年通り印刷物を製作し、行事予定や事業・研究実績などを周知した。	A	B		
	歴史	例年通り印刷物を製作し、行事予定や事業・研究実績などを周知した。	A			
	自然	自然博物館年報の制作及び発行ができなかった。	C			

令和3年度 考古博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)
 --:コロナ禍で事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	市史編さん事業と連動した形で市内の遺跡や自然環境の調査を進め、見込み通りの成果があがった。	調査研究資料を置く場所を確保したい。
	市史編纂関係報告書作成(曾谷貝塚・下総国府)	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	曾谷貝塚や下総国府の報告書作成を進めた。	次年度についても、実施したい。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して約1,000点を登録予定	年間を通して実施し、864冊を登録した。	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	次年度についても、実施したい。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間10回以上	2回、2人	C	コロナ禍の影響で、多く実施できなかった。	次年度についても、実施したい。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	常設展は年間を通して実施した。	B	感染症拡大防止のため休館となった前年度と異なり、年間を通して開館した。	次年度も通年で公開したい。
	企画展	県教育振興財団の依頼により実施	県教育振興財団の依頼により実施	B	千葉県教育振興財団が主催する巡回展「らくがく縄文館」を開催した。	依頼があれば次年度以降も積極的に協力し、開催したい。
	ホール小企画展1「下総に咲いた華 ー下総国分寺と宝相華文ー」	前年度~7/25	前年度~7/25	B	コロナ禍で館務実習に伴う展示替えができず、二か年にわたり同一展示を続けた。	コロナ禍に対応した館務実習の範囲で実施可能な展示としたい。
	ホール小企画展2「市川出土の縄文土器」	9/7~次年度	9/7~次年度	B	館務実習を二班に分けた短縮日程で実施し、可能な範囲で展示を製作した。	コロナ禍に対応した館務実習の範囲で実施可能な展示としたい。
	学校巡回展	秋を中心に4~5校で開催する	国府台小、真間小、大洲小、稲荷木小、幸小で実施	B	学校巡回展は弥生土器に残るコメの痕跡をテーマにした「土器のあなには何がある？」を小学校5校で開催した。	学校巡回展とワークショップの同時開催を前提としていたが、今後は学校の要望に沿う形に変更予定。
	展示解説	年間を通して、実施した。	75回、1,491人	B	常設展示を補うため、個人、団体(主に小学3年生)とも積極的に解説を実施した。	引き続き実施したい。

令和3年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ①全市民対象	考古博物館講座 (『続日本紀』、『日本霊記』を読む)	ともに月1回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	受講生(大半が市川市民)の期待に応え、『続日本紀』『日本霊異記』講読の講座を継続したい。
	考古博物館指導員養成講座(縄文学習・火おこし・組紐)	3種 11回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	次年度は実施したい。
	ボランティア研修日・活動日(縄文学習・火おこし・組紐)	年間を通して、実施する。	17回、111人	B	市の方針として主催事業は中止であるが、目的意識や技術の維持、情報交換のために積極的に実施した。	次年度も積極的に実施したい。
	考古博物館体験学習(土器づくり)	11月、12月	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	粘土の確保が大きな課題となっている。
	歴史カレッジ講演会		中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	次年度は実施したい。
	ナイトミュージアム		中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	次年度も開催は困難か
	夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	461人	A	事業が少ないなか、常設展示を補うために実施した。	次年度も実施したい。
	市川歴史カレッジ	5/8～月1回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	次年度は実施したい。
	縄文体験フェスティバル	3月28日	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	次年度は実施したい。

令和3年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ②学校連携	学校向け体験学習指導	申し込みを受けて実施する。	24校で実施（小学校23校、中学校1校）	B	コロナ禍のため、体験学習は出張授業に振り替えた。	次年度は実施したい。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	要請があれば、対応していく。
	高校生ボランティア活動支援	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	要請があれば、対応していく。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	申し込みを受けて実施した。	B	随時、対応しているが、概ね満足していた。	事前に連絡がなく来館することもあり、学芸員が不在であることもあった。
	大学生学芸員課程館務実習指導	7/28～8/7	5大学、5人	B	2班にわけて少人数、短期間の展示作業等を実施した。	次年度はホール展示をおこないたい。
	教員対象の博物館利用研修	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	要請があれば、対応していく。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	要請があれば、対応していく。
	社会科副読本『わたしたちの市川』制作協力	年間を通して実施する。	未実施	-	要請がなかった。	要請があれば、対応していく。

令和3年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	A	友の会からの要請に基づき、講師派遣などで協力した。	次年度についても、要請があれば協力していく。
	公民館講座	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	次年度も要請があればおこないたい。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	次年度も要請があればおこないたい。
	外部依頼講座	年間を通して実施する。	体験1件、講演4件を実施した。	A	外部依頼の事業が回復し5件協力した。	次年度についても、連携を図っていきたい。
運営	館報第49号発行	3月、700部	3月、700部	A	令和2年度事業の実績報告と、研究紀要からなる。	今後も継続して発行したい。
	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年	4回／年	A	考古博物館の事業内容をアピールした。	制作及び発行を継続したい。
	令和4年度考古・歴史博物館入館案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	A	行事のほか、一部の写真を変更し地図を修正した。	今後も継続して発行したい。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	考古博物館の施設維持に必要な予算を確保し、適切な維持管理に努めた。	予算が厳しい状況ではあるが、施設維持に必要な経費を要求する。

令和3年度 歴史博物館 事業実施状況評価

評 価 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)
 -:コロナ禍で事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究、整理及び維持管理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	収蔵資料の古文書(785点余り)・葛飾八幡宮より借用資料(8点)整理及び、民具(350点余り)整理が進むとともに、収蔵室自体の整理も進んだ。	収蔵資料の調査に要する時間が不足している。
	市内学校所蔵資料調査	事前に調整して実施する。	未実施	-	依頼が無かったため、実施しなかった。	郷土学習室のリニューアル等の要望があれば、協力をする。
	資料及び古写真のデータベース化	年間を通して実施する。	古文書目録のデジタル化	B	1つの家の資料数が多いため、目録数的にはあまり進まなかった。	
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	年間398冊を登録	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	図書館の整理を進める。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	A	千葉氏公開市民講座を受講。民具学会研究会、日本宗教民俗学会例会参加。他館見学(16館)	可能な限り、他の博物館等の見学会や資料調査等を実施し、展示や講座等に活用する。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	老朽化したキャプションを新たに制作し、展示資料の一部入れ替えを行った。	キャプションの入替や、展示パネルのメンテナンスを行う。
	企画展「発見・体験 昔の暮らし」	9月~12月	11/3~1/31 入館者3477人	B	昨年度に引き続き、資料に触れて体験するコーナーを設けることができなかったが、再現展示を充実させた。	コロナ禍に、対応した展示構成にする。
	企画展	前年度~5月	実施せず	-		次回は令和5年度の予定。
	企画展「季節の展示」	時期に合わせて実施する。	5/24~7/4 7/22~8/29 11/3~1/29 2/19~4/3	A	「いちかわの日蓮宗part1」「陸軍教導団と日清戦争」「教科書ヲ読ミマセウ」「花のよそおい」開催した。	季節にこだわらず、学芸員の日頃の調査・研究等に基づいた内容の展示を実施する。
	収蔵資料展	9月~10月	9/4~10/31	B	大学生の博物館実習の一環による展示会で、「いちかわの日蓮宗part2」を開催した。	次年度も実施予定。
	展示解説	年間を通して、また企画展開催中実施	10回、19人	B	コロナの感染防止に努め希望者に実施をした。	昨年度同様、感染防止に努め、希望があれば実施をする。

令和3年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ① 全市民対象	歴史博物館講座（中世、近代、民俗学）	中世3回、近代10回、民俗4回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
	体験学習指導員研修	10回	7回	B	市の方針として主催事業は中止であるが、目的意識や技術の維持、情報交換のために積極的に実施した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
	昔の遊び体験（紙芝居、紋切り遊び、火打ち石等）	毎週土・日曜日	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
	季節の行事体験（七夕飾り、正月飾り作り）	7月、12月	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
	昔の暮らし等の体験講座（洗濯、和綴じ本作り、歴史地図作り）	年4回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
	歴史カレッジ及び関連講演会	10回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	来年度に延期
	縄文体験フェスティバル	1回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
	ナイトミュージアム	1回	中止	-	市の方針に従い、不特定多数の市民に対面で密になる主催事業は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により実施予定。
教育普及事業 ② 学校連携	学校巡回展、教材用資料貸出、出前授業	申し込みを受けて実施する。	1校	B	行徳小において塩作りについての出前授業を行った。	申し込みがあれば実施する。
	小学生向け体験学習指導（昔の暮らし体験）	申し込みを受けて実施する。	15校 1,294人	B	関連資料の展示して公開したが、体験は中止した。	新型コロナウイルスの感染状況により予定を変更する。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申し込みがあれば実施する。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申込があれば実施する。
	大学生学芸員課程館務実習指導	8/31～9/3に実施する。	5大学、5人	B	感染症予防のため、期間の短縮を行った。	コロナ禍における、実習のカリキュラムについての検討が必要である。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申し込みがあれば実施する。

令和3年度 歴史博物館 事業実施状況評価

		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	A	今年度は、会による展示への協力、会報の原稿執筆、活動場所の提供、資料調査協力などを行った。ロビーに友の会コーナーを作った。	コロナ禍における、友の会事業への協力について検討をする。
	公民館講座（公民館主催講座への講師派遣）	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みはあったが、コロナ禍で中止となった。	申し込みがあれば実施する。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申し込みがあれば実施する。
	地元民俗行事協力（堀之内辻切り等）	1月	未実施	-	堀之内辻切りの担い手不足等により中止となった。	行事が再開すれば、参加協力をする。
運営	令和2年度歴史博物館館報（紀要）の制作及び発行	3月、700部	3月に700部を発行した。	A	博物館活動の年間記録及び調査研究成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	博物館活動をより多くの人々に知ってもらうための措置を行う。
	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年	4回／年	A	予定通り発行した。	だよりのPR方法をさらに検討する。
	令和4年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	A	予定通り発行した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	限られた予算内で適切な施設維持管理に努めた。	今年度も、施設維持に必要な予算を要求する。

令和3年度 自然博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)
 -:コロナ渦で事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業時間数は多くなかった。	C	データベース化が進行しなかった。新規の資料収集もほとんどできなかった。収蔵資料の整理についてはボランティアの方2名の協力により進んでいる。従来の昆虫標本の整理に加え、地学関係資料の整理も進んでいる。収蔵資料の管理について、現場の実態に即した業務フローの構築はできなかった。	収蔵資料の管理に関する業務フローを再構築した上で、従来の収蔵台帳に相当するデジタルデータを整備したい。
	トビハゼ生息状況調査(トビハゼ保全施設連絡会)	年間を通して実施する。	年間を通して予定した内容の一部を実施した。	B	「トビハゼ保全 施設連絡会」の運営と、巣穴調査、稚魚調査は実施したが、感染拡大防止の観点から会議と観察会は開催できなかった。	新型コロナウイルスの感染状況に応じた活動を行う。
	資料の電子化	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業時間数は多くなかった。	C	動画を中心に新規データが増えていて、その整理に追われた。そのため、スライドフィルムのデジタル化は、進まなかった。	フィルムの劣化が懸念されるので、なるべく速やかに行っていききたい。
	図書管理	年間を通して実施する。	臨時休館期間を除き、年間を通して対応した。	B	図書資料について、ボランティアの方の協力を得て、書庫の整理が進んだ。	引き続き、進めていきたい。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	適宜実施する。	未実施	-	感染拡大防止の観点から研究会等の開催が無く、他館の見学も行える状況ではなかった。	新型コロナウイルスの感染状況に応じた活動を行う。

展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	予定通り実施した。	B	感染拡大防止対策(閉館後の消毒、椅子の撤去、ハンズオンの中止など)を行いながら、コロナ前に近い形で開催できた。	新型コロナウイルスの感染状況に応じた内容で展示を行う。
	飼育展示、小展示	年間を通して実施する。	予定通り実施した。	B	感染拡大防止対策(閉館後の消毒、飼育ケースの間引き、フォトフレームの撤去など)を行いながらコロナ前に近い形で開催できた。	上記と同じ
	展示解説	年間を通して実施	必要に応じて来館者対応を行った。	B	マスク着用、控えめの会話という新たなマナーのなかで、寄せられた質問などには対応した。	新型コロナウイルスの感染状況に応じた内容で対応を行う。

令和3年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ①全市民対象	自然観察会、散策会 (親子自然観察会、 長田谷津散策会)	未設定	未実施	-	コロナ禍の市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで、いままでどおりの運営はむずかしく、新しい行事の形をゼロから考え直す必要がある。
	野草名札付け	未設定	未実施	-	上記と同じ	上記と同じ
	大町自然観察園環境整備	未設定	未実施	-	上記と同じ	上記と同じ

教育普及事業 ②学校連携	出前授業	申し込みを受けて実施する。	19回実施した。	B	市内の市立・私立小学校、幼稚園、大学から依頼があった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じた上で、感染状況に応じた活動を行う。
	小学生等自然体験学習指導 (大町公園)	申し込みを受けて実施する。	9回実施した。	B	少年自然の家が利用できなかったため日帰りで行った。市内外の市立小学校のほか、市内私立中高の部活動もあった。	上記と同じ
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	上記と同じ
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	上記と同じ
	大学生学芸員課程館務実習指導	8月	1回実施した。	B	予定したプログラムを行うことができた。	学生にとっては1度きりの機会なので感染防止を徹底し実施したい。
	教員研修会講師派遣	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じた上で、感染状況に応じた活動を行う。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	上記と同じ

令和3年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	(公民館、市民団体等) 講座講師派遣	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じた上で、感染状況に応じた活動を行う。
	大町レクリエーションゾーンフェスティバル	11月、1月	未実施	-	中止となった。	上記と同じ
	出張展示・展示解説及び出張体験指導(小・中学校祭り、少年自然の家チャレンジースクール等)	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	上記と同じ
	観光関係機関、部署との連携	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	上記と同じ

運営	自然博物館だよりの制作及び発行	隔月発行	実施した。	A	予定通り発行した。	予定通り発行したい。
	令和4年度自然博物館行事案内の発行	3月、1500部	行事開催のめどが立たなかったため印刷しなかった。	-	配布をしていない	予定通り発行したい。
	令和2年度自然博物館年報の制作及び発行	3月、500部	未実施	C	発行できなかった。	次年度に2ヶ年分発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	実施した。	B	予定通り実施した。	コロナウイルス感染拡大防止対策を行うことが求められている。

令和4年度 考古博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数
収集・調査研究 保管及び	1. 収蔵資料の調査・整理	1,000点/年
	2. 市内出土資料調査	年間を通して実施
	3. 博物館資料のパソコン管理（収蔵品・図書・住所ほか）	1,000件/年
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時
	5. 文化財担当関係調査	年間を通して実施
	6. 市史編纂関係調査（曾谷貝塚・下総国府）	年間を通して実施
	7. 曾谷貝塚総括報告書作成	年間を通して実施
展示	1. 常設展及び北国分駅構内展示	年間を通して実施
	2. 企画展「遺伝子からみた古代のイヌ」	2/12(日)～3/26(日)
	3. ホール小展示「市川出土の縄文土器」（令和3年度館務実習展示）	9/7(火)～7/31(日)
	4. ホール小展示「市川出土の縄文土器Ⅱ」（令和4年度館務実習展示）	8/5(金)～7/30(日)
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	
	1. 企画展関連講演会	2/26(日)、3/12(日)
	2. 企画展ギャラリートーク	2/19、3/5・19の日曜日
	3. 市川歴史カレッジ	5/14(土)～、第2土曜日
	4. 市川歴史カレッジ公開講演会	10/8(土)
	5. 考古博物館講座『日本霊異記』を読む	4/13(水)～、第2水曜日
	6. 考古博物館講座『続日本紀』を読む	4/27(水)～、第4水曜日
	7. 火おこし・縄文学習・組紐指導員の活動支援	土・日曜日ほか
	8. 夏休みスタンプラリー	7・8月
	9. 博物館コンサート	11/3(木)
	10. 展示・貝塚ガイドツアー	11/3(木)
	11. 土器づくり（友の会共催）	11・12月
12. 縄文体験フェスティバル（第23回）	3/26(日)	
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支える事業	
	◎学校関係	
	1. 学校巡回展「弥生土器」	9～12月
	2. 小学生向け出張授業・体験学習指導	4～7月
	3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
	4. 大学学芸員課程館務実習指導	7/29、7/30～8/5
	5. 千葉商科大学出張展示	年間を通して実施
6. 学生調べ学習指導	年間を通して実施	
◎教員関係		
1. 市立小中学校教員研修会	調整中	
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	
	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
	2. 公民館講座（社会教育課）	依頼により実施
	3. 地域まつり（自治会等）	依頼により実施
	4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	依頼により実施
	5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	依頼により実施
6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	依頼により実施	
運営	1. 令和4年度考古博物館館報（第50号）発行	3月、700部
	2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
	3. 令和5年度考古・歴史博物館行事案内発行	4月
	4. 博物館協議会事務局事務	2回/年
	5. 考古・歴史博物館特設サイト制作業務	年間を通して実施
	6. 施設の維持管理	年間を通して実施
	7. 施設整備（休館）	2/14(火)～17(金)

令和4年度 歴史博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・保管及び調査研究	1. 収蔵資料の調査、整理	500点/年	
	2. 市内小学校所蔵資料調査	年間を通して実施	
	3. 市内民俗行事調査	年間を通して実施	
	3. 博物館資料のパソコン管理（図書管理・住所管理）	1,000件/年	
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時	
	5. 文化財担当関係調査	年間を通して実施	
	6. 市史編纂関係調査	〃	
	7. 稲作調査（簡易な稲栽培）	〃	
展示	1. 常設展		
	2. 館務実習展	9/2（金）～10/23（日）	
	3. 企画展「発見・体験昔の暮らし」	11/3（木祝）～1/22（日）	
	4. 小企画展	年間を通して実施	
	5. 季節の展示等	年間を通して実施	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 市川歴史カレッジ	5/14（土）～、第2土曜日
		2. 歴史博物館講座「古文書講座（中近世）」	3回/年（1月）
		3. 体験学習指導員定例研修会	1回/2ヶ月（主に第4土曜日）
		4. 夏休みスタンプラリー	7・8月
		5. ちょっと怖い絵展	7/21（木）～8/31（水）
		6. 夏休み体験講座（昔の洗濯体験、和綴じ本作り）	8/27（土）、28（日）
		7. 展示・貝塚ガイドツアー、博物館コンサート	11/3（木）
		8. 縄文体験フェスティバル（第23回）	3/26（日）
		9. 昔の遊び体験	年間を通して実施
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支える事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展、出前授業	申し込みにより実施
		2. 小学生向け体験学習指導	11～1月
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導	8/23（火）、8/30（火）～9/1（木）
		5. 学生調べ学習指導	年間を通して実施
◎教員関連			
1. 市立小中学校教員研修会	調整中		
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
		2. 公民館講座（社会教育課）	〃
		3. 地域まつり（自治会等）	〃
		4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	〃
		5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	〃
		6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	〃
運営		1. 令和3年度歴史博物館館報発行	3月、700部
		2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
		3. 令和5年度考古・歴史博物館行事案内発行	4月
		4. SNS等による情報発信	随時
		5. 博物館協議会事務局事務	2回/年
		6. 施設の維持管理	年間を通して実施
		7. 施設整備（休館）	2/14（火）～17（金）

令和4年度 自然博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・保管及び調査研究	1. 収蔵資料の調査・整理	随時（ボランティアも含む）	
	2. 博物館資料の専用パソコン管理	随時	
	3. 各種研究会への参加、関連施設の視察	感染状況による	
	4. トビハゼ調査	2回／年	
	5. ヒヌマイトトンボ調査	7月	
	6. 長田谷津再整備検証（生物多様性いちかわ戦略）	随時	
	7. 剥製制作委託	3月	
展示	1. 常設展（市川の自然）	305日開館	
	2. 特別展示室の常時活用（飼育展示など）	305日開館	
	3. ホール小展示（飼育展示など）	305日開館	
	4. 自然観察園のみどころの掲示	毎月適宜	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. およこ自然観察会	未定（感染状況による）
		2. 長田谷津散策会	未定（感染状況による）
		3. 長田谷津ボランティア 野草名札付け	未定（感染状況による）
		4. 長田谷津ボランティア 自然観察園環境整備	未定（感染状況による）
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	◎学校関連	
		1. 出張授業	依頼により実施
		2. 小学生向け自然観察学習指導（グリーンスクールも含む）	依頼により実施
		3. 中学生職場体験指導	依頼により実施
		4. 高校生向け自然観察学習指導	依頼により実施
		5. 大学学芸員課程館務実習指導	7/29(金)～8/9(火)
◎教員関連			
1. 市立小中学校教員研修会	依頼により実施		
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 公民館講座（社会教育課）	依頼により実施
		2. 大町レクリエーションゾーン「秋のフェスティバル」「初夢フェスティバル」（動植物園主催事業にイベント協力）	依頼により実施
		3. ホタル観賞会期間の開館時間延長	中止
		4. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	依頼により実施
運営		1. 令和3年度自然博物館年報（No.33）発行	500部 3月
		2. 「市川自然博物館だより」発行	1,500部/6回（隔月）
		3. 2023年度自然博物館行事案内の発行	未定（感染状況による）
		4. 施設の維持管理	毎日
		5. 飼育展示 生きもの管理	毎日

令和4年度 企画展開催概要

1. 名称 遺伝子からみた古代のイヌ（仮称）
2. 期間 令和5年2月12日（日）～3月26日（日） 37日間
3. 会場 市立市川歴史博物館特別展示室（東側半分使用）
4. 主催 市立市川考古博物館 担当 学芸員（主任）山路直充
5. 趣旨 昭和59年に発掘調査された須和田遺跡第6地点では、奈良時代（8世紀後半）のイヌ11体、ウシ2個体、ウマ3個体の骨が大穴（直径4.2m×深さ2.7mのすり鉢状）からまとまって出土した。この時期のイヌの骨がまとまって出土した事例は日本ではこの事例のみである。『市川市史』刊行にあたり、11体のうち5体のイヌと向台貝塚出土の縄文時代のイヌのDNAを抽出したところ、良好な状態で遺存し、ゲノム解析に耐えられことが判明した。
今回の企画展では、向台貝塚の縄文時代のイヌとともに、須和田遺跡の奈良時代のイヌのゲノム解析をおこない、遺伝子から捉えた縄文時代以降のイヌの種の変化、奈良時代の下総国府で飼育されていたイヌの実態に迫る。
奈良時代のイヌのゲノム解析は日本で初めての事例となるので、今回の企画展が全国的に取り上げられることは必定である。通常の博物館来館者とともに多くの愛犬家の来館が期待でき、予算以上の反響が期待できる。

6. 関連行事

- 講演会 ①日時 2月26日（日） 14:00～15:00
会場 市立市川歴史博物館講堂
講師 市立市川考古博物館 学芸員 山路直充
演題 須和田遺跡第6地点について（仮題）
定員 30名
- ②日時 3月12日（日） 13:30～16:00
会場 グリーンスタジオ
講師 金沢大学 助教 覺張隆史先生
演題 遺伝子からみた日本の歴史（仮題）
講師 國學院大学 非常勤講師 山崎京美先生
演題 須和田遺跡のイヌが語るもの（仮題）
定員 100名

- ギャラリートーク 日時 2月19日（日）、3月5日（日）・19日（日）
各日 13:00～13:50
講師 市立市川考古博物館 学芸員 山路直充